

沖縄元米海兵隊兵士による女性殺害事件への抗議書

私たち日本キリスト教婦人矯風会は一八八六年の創立以来、女性の人権を守るために、特に性暴力、性搾取とたたかってきた団体です。この度、沖縄でまたも米軍関係者による凶悪な女性殺害事件が起きました。今年の三月にも米兵による性暴力事件が起きたばかりです。

米軍関係者の犯罪は、一九七二年の沖縄本土復帰以降だけでも、約六〇〇〇件にのぼります。そしてこれらの殆どの犯罪が、米兵や軍属の特権的な法的地位を認めた「日米地位協定」によってともに裁かれています。日米両政府はこうした事件が起きる度に「再発防止」や「綱紀粛正」に努めると言ってきましたが何も変わっていません。

翁長沖縄県知事は、折しも来日中の米大統領に面談を求めましたが日本政府に退けられ、県民の声を直接届けることができませんでした。そして開かれた両国首脳会談では「地位協定の運用を見直す」、「哀悼の意」等が表明されただけでした。この不平等な地位協定の運用を見直すだけでは何も解決しないことは既に実証済みです。軍隊は人を殺すための暴力組織です。その軍隊のための基地がある限り、犯罪はなくなりません。この、基地がある故に引き起こされる構造的犯罪から、市民を守ることでできない日米両政府に、私たちは強く抗議をいたします。

私たちはこのような痛ましい事件を二度と起こさせないためにも、日米両政府に対して沖縄からの軍事基地の撤退を求めます。

公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会

理事長 川野安子

二〇一六年五月三十一日

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ様

内閣総理大臣 安倍晋三様